

混迷の時代、出雲から陽が昇る

梅花の待ち遠しい季節です。ますますご健勝のことと、お喜び申し上げます。

島根県は2005年、「竹島の日」条例制定によって領有権主張を世界に向けて明確にしましたが、国政の場で韓国との交渉はされた形跡がありません。金融資本主義が終焉し、世界は混迷のときを迎えています。

2月22日に第4回「竹島の日」を迎えます。このままの状態が深刻化すれば、必然的に朝鮮半島と日本列島で大きな社会問題が発生し、国内外で不測の事態が懸念されます。朝鮮半島と対岸の日本列島では、世界に唯一残る冷戦構造と核大国の均衡のなか、時間と空間が機能し、抑制された対立が続いています。朝鮮民主主義人民共和国、大韓民国、日本国の近代史を凝縮した象徴が竹島独島と日本海東海の呼称問題です。他にも沢山問題がありますが、それらを総合的に活かし、出雲大社に伝わる和譲文化を人類共通の財産とするために、このたび「中国古典名言録」を出版しました。当研究所内藤正中理事執筆の「竹島=独島問題入門」出版とあわせて、記念講演会・シンポジウムを開催いたします。みなさまの積極的なご参加を、心よりお待ちしております。

財団法人人間自然科学研究所
理事長 小松 昭夫

2009年 2月22日(日) 8:50~17:30

くにびきメッセ 国際会議場 受付 8:00~ (参加費 無料)

◎講演会 8:50~14:20

- オープニング映像
- 21世紀の新たな民主資本主義
地方発の政党と国民国連構想
- 世界の現状と、中国古典名言録の意義
- 安重根義士と日本人看守の秘話

—— 休憩 12:00~13:00 ——

- 歴史問題に関する対立の性格と解決の方向性について平和学的考察
平和博物館の役割とあり方

◎シンポジウム 14:30~16:00

国民国連構想と朝鮮半島と日本列島の役割

◎分科会 16:10~17:30

- 第1分科会 尊厳の命から未来をひらく
- 第2分科会 日本の改革は司法改革から
- 第3分科会 古代日本と渡来人
- 第4分科会 人は人によって生かされる ~ 平和の上に

会場地図

交通アクセス

JR松江駅より徒歩で7分
JR松江駅よりバスで3分 「松江駅・メッセ方面」行き「くにびきメッセ前」下車
山陰道「松江中央ランプ」より車で10分

車でお越しのお客様へ
駐車料金について
3時間まで無料。以後5時間まで1時間ごとに100円。以後30分ごとに100円。

懇親会 松江東急イン 受付 18:00~ (参加費 5,000円)

当日の受付混雑を避けるため事前振込へのご協力をお願い致します。懇親会の食事はすべてマクロビオティック料理を準備しております。

懇親会申し込み締切/2月19日(木) 振込指定口座/山陰合同銀行 古志原支店 普通 3636335 財団法人 人間自然科学研究所

申込書 本講演会への参加を御希望の方は、下記申込書に必要項目を記入のうえ、FAXまたはE-mailにてご連絡ください。
FAX **0852-32-3620** E-mail **webmaster@hns.gr.jp**

御氏名	住所	TEL/FAX	メールアドレス	講演会	分科会	懇親会	御弁当
				<input type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席	<input type="checkbox"/> 第1分科会 <input type="checkbox"/> 第2分科会 <input type="checkbox"/> 第3分科会 <input type="checkbox"/> 第4分科会	<input type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
				<input type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席	<input type="checkbox"/> 第1分科会 <input type="checkbox"/> 第2分科会 <input type="checkbox"/> 第3分科会 <input type="checkbox"/> 第4分科会	<input type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要

※地元食材を使ったおいしいお弁当の注文を承ります。(税込価格 1,000円) 会場付近のお食事場所が離れているため事前申し込みをお勧めします。ご希望の方は申込書の御弁当の欄にシ印をして、2月12日(木)までにご連絡ください。代金のお支払いは当日会場にてお願いします。

講師プロフィール



張可喜

1966年北京大日本語学科卒業後、新華社入社。
1979年から2002年まで海外特派員として三回東京駐在。主に日本の経済と科学技術について取材と研究活動を行う。
新華社本社「世界経済科学技術週刊」編集長、世界問題研究センター次長等歴任。現在、世界問題研究センター一研究員。(社)日中科学技術文化センター北京事務所代表。



金住 則行

弁護士、グリーン法律事務所代表。1962年中央大学法学部法律学科卒、67年第一弁護士会、弁護士登録。
常議員、分離修習阻止実行委員、弁護倫理解説特別委員会館編集委員、司法独立委員、会館編集委員、日弁連司法独立委員、司法問題対策委員、刑法改正問題対策委員、司法問題対策委員などを務める。趣味は囲碁・ゴルフ・水墨画・歌曲・映画等多方面にわたり、才能のある画家・歌手・映画製作者などを支援している。



孟 白

1982年北京師範大学地理学部古地理学科卒業。
93年より学苑出版社の社長兼編集長。中国では唯一の国家レベルの民間文化学報「民間文化フォーラム」編集長にして、北京海淀工詁学校名誉校長、中国地理学会理事、中国編集学会理事、九三学社中央委員、九三学社中央文化委員会主任でもある。



戸塚 悦朗

1964年立教大学理学部卒業。同大法学部法律学科に学士編入し、70年卒業。73年に第二東京弁護士会登録(～2000年迄)。国連人権NGO代表として国際的人権擁護活動に従事。国際的な舞台上で、精神障害者等被拘禁者の人権問題、日本軍「慰安婦」問題などの日本の戦争責任を問い続けてきた。90年、ロンドン大学(LSE)大学院卒業(LLM:法学修士)。2000年4月から03年3月まで神戸大学大学院国際協力研究科助教授。03年4月より龍谷大学法学部、05年4月から同大学法科大学院教授。04年から国際人権法政策研究所事務局長。国際人権法実務専攻。国際関係学博士。



馬 紅治

北京漢方医薬大学卒業、中国漢方医研究院(現在の中国漢方医科学院)にて中国医学歴史文献研究をされ2005年に修士修了。同年より学苑出版社医薬衛生編集室編集者、世界漢方医薬学会連合会(WFCMS)出版編集専門委員会理事を務める。



安田 壽子

1986年鳥取県婦人問題地域推進員。95年国連世界女性会議北京フォーラムに県費参画、96年「鳥取県女性史を学ぶ会」代表となる。女性への暴力と人権侵害問題から、97年自宅をシェルターに開放し活動を始める。2000年7月「女性と子どもの民間支援みもざの会」を命名し現在に至る。現在までのシェルター活動での支援総人数全国から1050人、相談者300人。鳥取県人権問題講師団員、鳥取県人権尊重社会づくり委員、女性と子どもの民間支援、みもざの会主宰、保護司を務める。



安齋 育郎

東京大学工学部原子力工学科卒業、工学博士。
1986年立命館大学経済学部教授、88年より同大学国際関係学部教授。国際平和ミュージアム名誉館長。日本平和学会理事、日本学術会議平和問題研究連絡委員会委員、世界大会平和博物館ネットワーク国際調整委員、原水爆禁止世界大会起草委員長など要職を務める。



渡部 通恵

アフガン寺子屋プロジェクト代表。
1972年東京都内小学校勤務、76年松江市に転居。教員として勤務し、母親・主婦としてつとめる傍ら宍道湖・中海などの環境の保護活動、子どもの成長に大きく関わる安全な食べ物の確保(たべもの会)など、生活に根ざした活動に携る。
多くの留学生の日本生活支援活動や、戦禍の国アフガニスタンに4校の学校を建設するなど、教育・国際交流・国際貢献活動を続ける。



斉藤泰彦

仙台一高。東北大仏文科、駒澤大学大学院人文研修士課程修了。朝日新聞記者を経て、90年より宮城県栗原市若柳の曹洞宗大林寺住職。70年間にわたって供養された安重根義士の遺墨(絶筆)を祖国に返還し、日韓の歴史を正しく検証している。

※安重根・・・大韓帝国(朝鮮)の民族独立運動家であり、殉国の英雄として知られる。1909年日本の初代首相伊藤博文をハルビン駅(旧満州)において射殺した。



坂本 巖

1962年島根大学文理学部生物学専攻卒業、鳥取大学医学部病理学第2教室に入局。教務員、助手、講師を歴任。76年「黄痘発生機構の研究」で医学博士号を取得。77年より島根医科大学医学部生物学助教授に就任。03年3月退任後、島根大学医学部生命科学講座嘱託講師、生態学を担当。(財)人間自然科学研究所理事。



豊田 有恒

慶応義塾大学医学部中退、武蔵大学経済学部卒業。
「鉄腕アトム」など創世記のアニメ脚本家、アメリカSF翻訳家、作家などを経て、2000年4月より島根県立大学総合政策学部教授。古代韓国を舞台の1つにしたSF小説『倭王の末裔』の取材の渡韓をきっかけに渡韓歴も多く韓国に造詣が深い。日本古代史や韓国文化などさまざまな分野で著作を発表している。



小松 昭夫

1973年「小松産業」設立。91年ニュービジネス大賞受賞、93年地域社会貢献企業者賞受賞。94年HNS人間・自然・科学研究所設立。
95年注目発明選定証受証、96年地域活性化貢献企業賞受賞、07年国土交通大臣表彰を受賞、シンポジウム開催と出版、数々の戦争記念館を訪問献花、平和・環境・健康分野で構想を発表。(財)人間自然科学研究所理事長、小松電機産業(株)代表取締役



財団法人 **人間自然科学研究所**

<http://www.hns.gr.jp>

〒690-0046 島根県松江市乃木福富町735-188
TEL/050-3161-2490 FAX/050-3161-3846
E-mail webmaster@hns.gr.jp
担当:小谷・堀江・藤井・川中・尹駿波・徐佳・上田

協力

太陽の会 ・ 小松電機産業株式会社 ・ 大昌株式会社 ・ 有限会社米子プリント社 ・ 有限会社アーク工業所 ・ 有限会社八雲自動車 ・ センコン物流株式会社
テクノコーティング株式会社 ・ 株式会社ジーエヌ ・ 株式会社ダイヤキコウ